

RICEBALL SEMINAR



ライスボールセミナー

2019. OCTOBER

日時 毎週火曜日 12:20-12:50

会場 創思館 1F カンファレンスルーム (SO101)

参加費無料・おにぎり付

多数ご参加いただいた場合、おにぎりの品切れ、
および入場制限が発生する場合がございます。あらかじめご了承ください。

vol.11

10/1
TUE

日本における『詞綜』の所蔵と受容

【講師】 靳 春雨 立命館アジア・日本研究機構 専門研究員

vol.12

10/8
TUE

社会学的想像力を促す場としてのゲーミング ：主婦/主夫をロールプレイするゲームの談話を観察する

【講師】 高橋 志行 衣笠総合研究機構 研究員

vol.13

10/15
TUE

北朝鮮の核兵器について—核拡散の歴史を踏まえて—

【講師】 崔 正勲 立命館アジア・日本研究機構 専門研究員

vol.14

10/29
TUE

いま、マルクスを読む意味

【講師】 百木 漢 衣笠総合研究機構 専門研究員

“大学ではどんな研究が行われているのだろうか？”と思ったことはありませんか？ライスボールセミナーは、お昼の休み時間におにぎりを食べるから、若手研究者による研究発表を聞いて、自由にディスカッションを楽しむセミナーです。学生でも教職員でも、どんなにでも気軽に参加していただけます。お昼のちょっとした空き時間に、ぜひのそいでみてください。お茶やおにぎりをご用意してお待ちしています！

講師紹介

靳 春雨 (立命館アジア・日本研究機構 専門研究員)

日本における『詞綜』の所蔵と受容



専門分野 詞学

研究者の道に迷んだきっかけ 高校時代に受験勉強で日々緊張な学習ばかりでした。その進学のストレスを発散するために、いつしか知らないうちに、様々な感情を咏う中国の詞に心惹かれていきました。最初は単純な興味でしたが、じょじょに満足できなくなり、多くの優れた詞人の背景、生涯や作品及び現在に伝わってきた詞集の流通過程などを、さらに詳しく知るために研究を始めました。萩原先生の指導で、一本目の論文を発表したおかげで、自分で様々な資料を調査分析することで何かの結論が出る、何かわかるということに喜びを感じるようになりました。その後、研究を続けていくことを決心しました。

研究内容紹介 宋代になって開花期を迎えた唐詩と異なる文学ジャンルの詞、いわゆる宋词を研究しています。主に南宋時代に刊行された詞の作品の総集『典雅詞』、及びその中に収録されている作品集『蕲蕪詞』の日本や中国における版本の所蔵状況、流通過程、刊刻者、作者の生涯などを研究しています。また清代の著名な詞人である鄭文焯とほかの文人との交流にも注目しています。その他、清代の文学者である朱彝尊が編集した詞集『詞綜』に目を向け、日本や中国における所蔵状況と各版本間の異同、批注が施されている批注本の特徴などを整理分析しています。

高橋 志行 (衣笠総合研究機構 研究員)

社会学的想像力を促す場としてのゲーミング ：主婦/主夫をロールプレイするゲームの談話を観察する



専門分野 ミクロ社会学 (相互行為論)、ゲームスタディーズ

研究者の道に迷んだきっかけ 社会学者 Gary Alan Fine の著作 'Shared Fantasy' に出会って。

研究内容紹介 現代日本の一部ではいまだに、家事や育児を行うのが「夫婦のうち、妻の側」である、といった古い考えが堂々と主張されることがあります。私達の多くは直感的に、それが時代に合わない「問題発言」であると判断できます。ですが、そうした誤った家族観にあてはまらない多様な家族像を、多様なまま正確に理解しようとすると、それはとてもむずかしい作業になりそうです。そうした社会問題の理解をどう促進するか。発表者は、ミクロ社会学およびゲーム研究の立場から、アナログゲーム (会話型 RPG) を利用したワークショップを採用するのが有効ではないかと考えています。セミナーでは議題設定と手法の選択、現在得られている知見についてお話を予定です。

崔 正勲 (立命館アジア・日本研究機構 専門研究員)

北朝鮮の核兵器について一核拡散の歴史を踏まえて一



専門分野 国際政治学、地域研究 (北朝鮮)、国際関係理論

研究者の道に迷んだきっかけ 「なぜ人は争うのか」という疑問を解くためにこれまで研究をしてきました。これには、私のアイデンティティが深く関連していますが、とりわけ人類が20世紀の過ちを繰り返さないように、そして21世紀が東アジアにとって20世紀よりは平和な世紀となるようにとの願いが通じています。これに微力ながら貢献すべく、具体的な研究対象を北朝鮮の核問題に定め、日々研究に精進しています。

研究内容紹介 メディアでもよく取り上げられてきたいわゆる「北朝鮮の核問題」について研究しています。冷戦体制崩壊以後、米国と朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮) との間で朝鮮半島核危機が形成されてきました。博士後期課程では、この形成要因について国際関係理論を分析枠組みとし分析し、現在は北朝鮮の核兵器高度化を切り口に新たな局面に入った北朝鮮をめぐる国際関係について研究しています。

百木 漢 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

いま、マルクスを読む意味



専門分野 社会思想史

研究者の道に迷んだきっかけ 学部時代にマルクスの『資本論』やアーレントの『人間の条件』を読み、哲学や思想って面白い、と感じたこと。また会社員時代に日本人の働き方に疑問を感じたこと。

研究内容紹介 ハンナ・アーレントとカール・マルクスを中心に労働の思想史を研究しています。小難しい思想書を読みつつ、そこに書かれている思想をどのように現代社会に活かすことができるか、それぞれの思想家の面白さをどうすれば伝えられるか、を考えています。特に関心があるのは、資本主義と全体主義と労働の両者です。

[会 場] 立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1階 カンファレンスルーム (SO101)

[日 時] 毎週火曜日 12:20-12:50

[共 催] 衣笠総合研究機構、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO)

[お問合せ] 衣笠リサーチオフィス TEL: 075-465-8224 / FAX: 075-465-8342



ライスボールセミナー、Facebook ページもCHECK!
<https://www.facebook.com/riceballseminar>

